



三変稲荷神社古墳出土 龍鏡

川越市指定史跡・三変稲荷神社古墳出土の龍鏡

—第2回川越の指定文化財展「未来に受け継ぐ郷土の宝物」より—

はじめに

広大な武蔵野台地の北端、入間川沖積地を臨む通称“川越台地”の東縁に立地する三変稲荷神社古墳（川越市小仙波町4丁目）は、現存高2.5m、一辺が20～25mの規模を有する方墳です（図1）。周囲には幅5～7m、深さ約1.8mの周溝が巡り、東辺の中央に地山を掘り残した陸橋部を有します。昭和37年に墳丘から碧玉製石釧・龍鏡が採集され、発掘調査では大型の壺形埴輪が出土しています。

三変稲荷神社古墳は採集・出土資料の特徴から、4世紀後葉に築造された方墳であると考えられています。県内でも数少ない現存する前期古墳であり、ヤマト王権との政治的な結びつきを示す龍鏡等の希少な

遺物を有する在地首長の墓であるなど、学術的価値が高く評価されたことから、平成12年に川越市指定史跡となりました。

今回は、三変稲荷神社古墳の学術的価値を示す資料の一つ、龍鏡（上写真）について紹介します。

古墳時代の鏡

専ら身だしなみを整えるために使われる現代の鏡とは異なり、古墳時代の鏡は祭祀の道具であり、王権の象徴でもありました。製作された場所で「中国鏡（中国からもたらされたので舶載鏡とも呼ばれます）」と「倭鏡（中国鏡を模倣して日本で作られた鏡で、仿製鏡とも呼ばれます）」に分けられ、青銅や白銅と

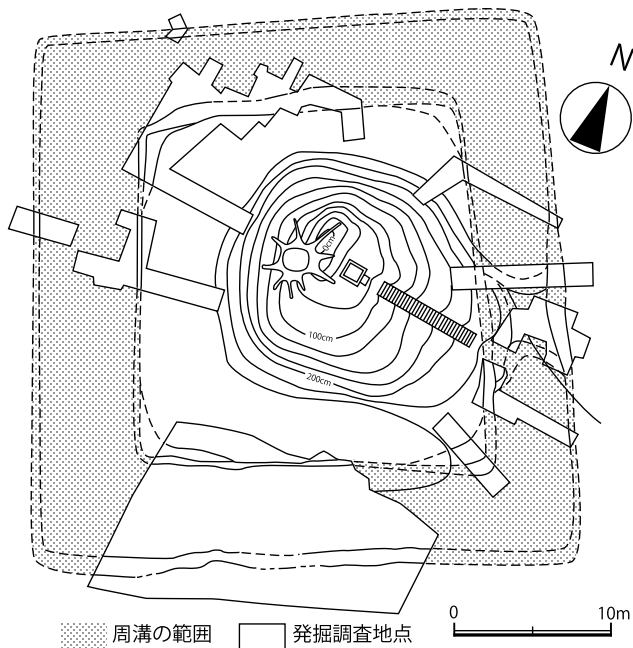


図1 三変稻荷神社古墳平面図 (川越市教育委員会蔵)

いった銅の合金を使って^{ちゆうぞう}鑄造されました。多くは円盤状を呈し、磨き上げた^{きやうめん}鏡面(姿を映す面)・様々な紋様が鑄出された鏡背(裏面)・^い鈕(鏡背中央にある突起)・^{えんぶ}縁部などの部分で構成されます(図2)。

古墳時代の鏡は、鏡背の紋様や縁部等の特徴を元に学術的な名称が付けられています。例えば“^{ひみこ}卑弥呼の鏡”として有名で、埼玉県内では東松山市高坂古墳群からも出土している「^{さんかくぶちしんじゆうきやう}三角縁神獣鏡」は、“断面「三角」形の「^{えんぶ}縁」部を有し、鏡背に「^{しんせん}神(神仙)」や「^{じゆう}獣」の紋様が表現されている「鏡」を示しています。今回紹介する^{だりゆうきやう}「鼉龍鏡」の場合、“鏡背に「^{だりゆう}鼉龍(中国の伝説に登場する、ワニのような姿をした龍)」の紋様が表現された「鏡」となります。

だりゆうきやう 鼉龍鏡

鼉龍鏡は中国の^{ごかん}後漢～^{せいしん}三国・西晋時代(1世紀～4世紀初め頃)に盛行した中国鏡である「^{がもんたいしんじゆうきやう}画紋帯神獣鏡」と「^{かんじやうにゆうしんじゆうきやう}環状乳神獣鏡」を日本の鏡工人が模倣し、紋様を組み合わせる新たな紋様を考案した鏡であり、倭鏡の代表例といえます。紋様のオリジナルである「^{にゆう}画紋帯神獣鏡」(図3A)では、細長い体の^{じゆう}獣が乳を回り込み、隣り合う乳の間に人物像(神仙)が配置されます。もう一つのオリジナルである「^{かんじやうにゆう}環状乳神獣鏡」(図3B)では、長い棒(巨。ものさし)を^{くわ}横向きに^{くわ}咬えた獣と環状の乳が表現されており、鼉龍鏡ではこれらの紋様が日本独自の解釈でミックスされています。オリジナルの中国鏡に近い紋様を持つ例

きやうはい <鏡背>

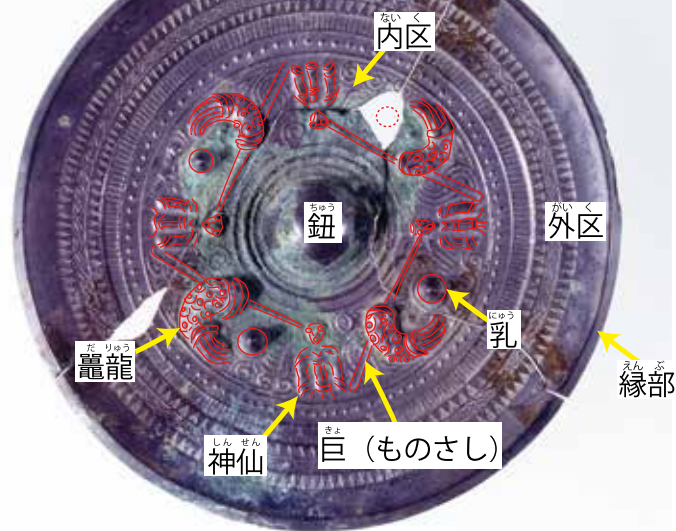


図2 三変稻荷神社古墳出土鼉龍鏡と部位の名称

(図3C)では、体が細長く伸びて乳を回り込み、神仙と頭部を共有した^{たんとうそうどう}単頭双胴姿の鼉龍と、^{くわ}横向きに長い巨を咬えた鼉龍が表現され、さらに環状乳も見られます。これらの紋様が4つある乳の周りに配置されています。

オリジナルの表現が“細長い体の獣”である以上、鏡背にうねる長い綱のような姿は「鼉龍」ではないはずですが、今日では「鼉龍鏡」という学術名称が定着しています。

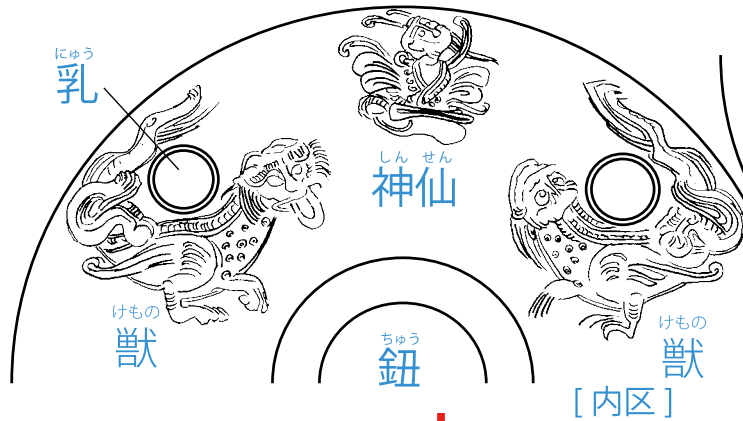
ここで三変稻荷神社古墳の鼉龍鏡(図2・図3D)を見てみましょう。直径は13.3cmを測り、^{きよしもん}鋸歯紋(のこぎりの刃のように三角形が連続した紋様)と波紋を主体とした外区、鼉龍・神仙・巨が鈕を中心として4単位配置された内区を持ちます。この鼉龍は短い綱のような姿をしています。かろうじて人型に見えなくもない神仙の頭部から斜めに伸びる巨の表現が優先されているため、細長い体が神仙に届かず、神仙と鼉龍が独立しているように見えます。オリジナルの紋様をもつ「^{がもんたいしんじゆうきやう}画紋帯神獣鏡」(図3A)「^{かんじやうにゆう}環状乳神獣鏡」(図3B)はおろか、他の鼉龍鏡(図3C)と比較しても紋様の構成が崩れてしまっている様子がうかがえます。

デザインの变化

では、2種類の中国鏡を元に作られたはずが、なぜこのようなデザインの変化が起きたのでしょうか。それはおそらく、鼉龍鏡のデザインをした鏡工人が、オ

が もん たい しん じゅうきょう
A. 画紋帯神獣鏡

(奈良県・ホケノ山墳丘墓出土)



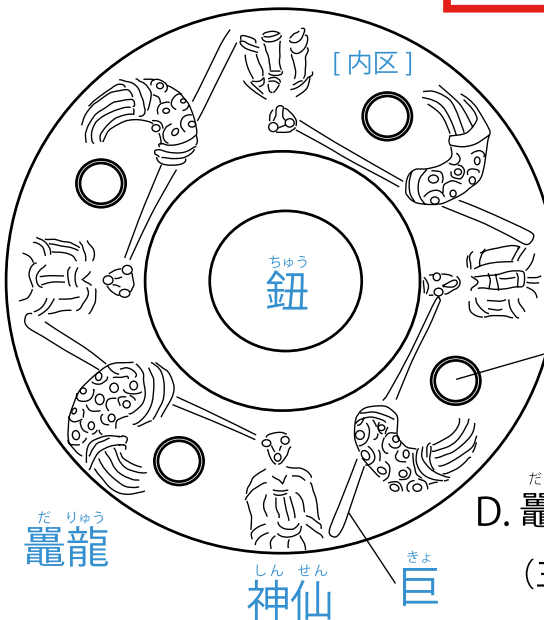
かんじょうにゅう しん じゅうきょう
B. 環状乳神獣鏡

(山梨県・丸山塚古墳出土)

〈中国鏡〉



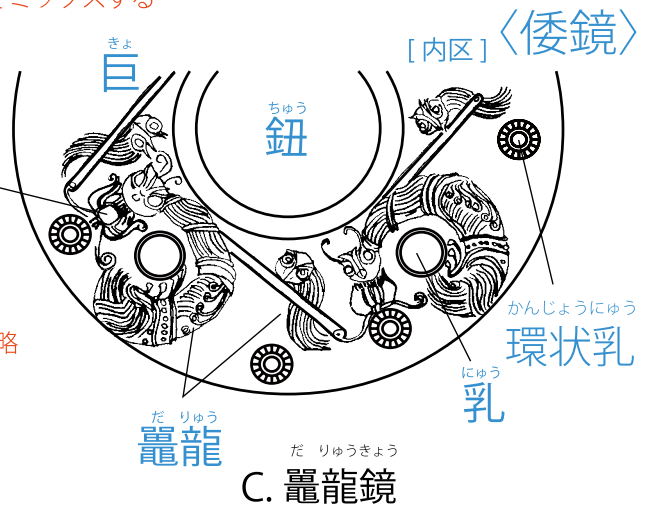
紋様を模倣・独自の解釈でミックスする



だ りゅうきょう
D. 龍鏡

(三変稻荷神社古墳出土)

紋様の変化・省略



だ りゅうきょう
C. 龍鏡

(奈良県・新山古墳出土)

※図は『考古資料大観5 弥生・古墳時代 鏡』(小学館)所収写真をもとに筆者がトレース

図3 中国鏡から龍鏡への紋様変遷

オリジナルの紋様に込められた意味(中国の神話・伝説・思想)を正確に理解しないまま、形状のモチーフだけを取り入れて再構成したからだと考えられます。前記のとおり、本来の「画紋帯神獣鏡」(図3A)では向かい合う細長い獣の間に一人の神仙が配置されるのですが、龍鏡(図3C)では獣と神仙が一つの頭部を共有・合体した単頭双胴の姿で、神仙の体も人間には見えないような幾何学的な紋様に変化しています。さらに龍の頭部が「環状乳神獣鏡」(図3B)の様に細長い巨を横向きに咥えているのですから、獣も神仙もあったものではありません。紋様のモチーフである獣や神仙についての知識、あるいはその背景にある神仙

思想(不老長寿の存在である伝説の神仙は、同じく不老長寿を願う中国の王や貴族に好まれるモチーフでした)を製作者が理解していれば、獣と神仙が一体化して得体の知れない存在になるような齟齬は起きなかったことでしょう。

龍鏡に限らず、古墳時代の鏡には同じ紋様でありながら、その表現に幾つものバリエーションが見られます。その理由については諸説ありますが、大きくは①製作時期による差、②製作した工房あるいは工人による差に分けられます。

①の製作時期による差と考えると、当初は元のデザインを忠実に模倣して製作していたものが、繰り返し

鏡を製作して鑄型が破損し作り変える際や、模倣する工人が代替わりした際など、時間経過の中でデザインの簡略化が進んだというものです。特に鑄型を作りなおす場合、手本となる鏡をそのまま鑄型に写し取ったために紋様が鏡写しに反転する例や、鏡を粘土に押し当てて型を取る“踏返し技法”により、紋様のシャープさが失われ、細部が変化することもあります。

②の製作した工房や工人による差と考えた場合、鏡を製作する工房や工人が複数存在し、デザインを模倣する段階で工房あるいは工人ごとに異なる解釈やアレンジが加えられ、結果としてオリジナルのデザインは共通しながらも、細部の異なるデザインが複数存在するというものです。

古墳時代、各地を治める首長がヤマト王権に服属すると、服属の証として鏡が配布されたと考えられています。これらの鏡は、畿内に存在したと考えられている鏡工房で製作され、配布相手の規模やヤマト王権との関係性によって紋様の種類・大きさ・配布する数量が異なっていたようです。そのため、鏡製作の発注時期が異なることによる製作年代の差も、工房・工人による差も、どちらも紋様にバリエーションがあることの根拠となりえます。実際には、製作年代の差、工房・工人による差が複雑に絡み合って、同じ紋様の鏡に細部の異なるバリエーションが幾つもの存在することになったのだと考えられます。甕龍鏡の場合、製作時期や工房・工人の差だけでなく、オリジナルの紋様を理解しないまま独自の解釈でアレンジを加えてしまった点が、デザインの変化に大きな影響を与えているといえるでしょう。

おわりに—「鏡」を持つことの意味—

古墳時代に鏡を持つことの意味は何でしょうか。繰り返しになりますが、古墳に副葬される鏡は強いまじないの力を有する祭祀の道具として使われていたもので、地域の祭祀を司る首長の所有物として、王権の象徴でもありました。本稿で述べてきたとおり、古墳時代の鏡は甕龍鏡を含めて幾つもの紋様があり、鏡のサイズも大小様々です。これらの鏡はヤマト王権によって分配されたものであり、古墳から鏡が出土することは、その古墳に葬られた人物が畿内のヤマト王権によってその地域の首長として認められていた証でもあります。三変稻荷神社古墳に埋葬された人物は、ヤマト王権から与えられた甕龍鏡を用いて、川越台地に君臨する首長として地域の祭祀を執り行っていたのです。

三変稻荷神社古墳出土の甕龍鏡は、指定文化財展の会期後も、博物館常設展示室でご覧になることができます。甕龍鏡に秘められた古墳時代の息吹を、ぜひ近くで感じてみてください。

(教育普及担当 平野寛之)

《主要参考文献》

1. 岡田賢治 1991「埼玉の古鏡 出土鏡を中心として」『第4回企画展 美の先達者たち 鏡にみる日本の美と心』川越市立博物館
2. 川越市 1972『川越市史 第一巻原始古代編』川越市
3. 川越市遺跡調査会 2013『三変稻荷神社古墳第2次発掘調査報告書』川越市遺跡調査会調査報告書第43集 川越市遺跡調査会
4. 川越市立博物館 1996『第9回企画展 古墳時代の川越』川越市立博物館
5. 車崎正彦 1993「倭鏡の作者」『季刊考古学』第43号 雄山閣
6. 車崎正彦編 2002『考古資料大観5 弥生・古墳時代 鏡』小学館
7. 潮見 浩 1988『図解 技術の考古学』有斐閣選書 有斐閣
8. 森下章司 1993「仿製鏡の変遷」『季刊考古学』第43号 雄山閣



三変稻荷神社古墳 近景

史料集『川越藩松平大和守家記録』

『川越喜多町名主御用日記』の出版について

当館では、江戸時代後期川越藩の領主であった松平大和守家の記録である『川越藩松平大和守家記録一』と、川越町の一つ喜多町の様子を記した『川越喜多町名主御用日記一』の2つの史料集を出版いたしました。

1 『川越藩松平大和守家記録』について

江戸時代後期の明和4年(1767)から慶応2年(1866)まで、川越藩の領主であった松平大和守家(以下大和守家)の記録です。

家康二男秀康の五男である直基を祖とする大和守家は、二代目直矩なおのりが5度にわたり転封をくりかえしたため俗に引越大名と言われるほど、頻りに領地が変わりました。上野国前橋より転封の後、川越にはおよそ100年にわたり大和守家は在城しておりました。

大和守家では、老中部屋にて作成された「記録」と呼ばれた史料があり、全体で273冊が現存しています(表1参照)。そのうち川越分だけでも117冊あり、大和守家時代の川越藩の状況を知る基本史料です。

表1 松平大和守家記録内訳(前橋市立図書館蔵)

	場所	冊数	時期
1	記録(白河)	28	元禄11年(1698)~寛保2年(1742)
2	記録(姫路)	13	寛保2年(1742)~寛延2年(1749)
3	記録(前橋)	50	寛延3年(1750)~明治2年(1869)
4	記録(川越)	117	明和5年(1768)~慶応2年(1866)
5	記録(江戸)	36	文政10年(1827)~慶応2年(1866)
6	記録(相州)	26	文政7年(1824)~嘉永6年(1853)
7	記録(高輪)	3	嘉永6年(1853)~万延2年(1861)
8	日帳	56	天保4年(1833)~明治10年(1877)
9	その他	76	元禄11年(1698)~明治15年(1882)
	合計	405	

今回出版した『川越藩松平大和守家記録一』では、明和5年(1768)から6年(1769)までの2年分を掲載しております。この記録から、川越藩やその藩士の動向などが詳細にわかります。

とはいっても、漢文のように漢字が多く並ぶ江戸時代の記録を読むのは大変なことです。そのため、概要を記した内容細目を作成しました(一部をホームページで公開)。この内容細目から、調べてみたい事項や人名などをかんたんに探すことができます。

2 『川越喜多町名主御用日記』について

江戸時代後期の文政7年(1824)から明治4年(1871)まで、川越十か町の一つである喜多町の名主が記した記録で、幕府や川越藩の御触や、喜多町に転居・転出した書類などを写した記録です。川越町での火事の記録や町人の動向、また参勤交代や寺社への参詣など藩士の動向などもうかがい知ることが出来ます。



写真1 御用日記(文政7~天保4)(小杉国武氏蔵)

『川越喜多町名主御用日記一』では、文政7年(1824)から天保4年(1833)までの御用日記7冊分を掲載しております。この史料から、川越町内や川越藩のようすがわかります。この史料集では、史料の概要を解説として巻頭につけております。この解説を参考にして、川越町の重大事件などの概況を知ることが出来ます(解説全文を当館のホームページで見られます)。

これらの史料集の刊行には、当館のボランティア組織である「松平大和守家記録を読む会」や「川越古文書同好会」の方の協力を得ました。古文書を現代の字に直す作業(翻刻)や、パソコンへの入力作業などを手伝っていただきました。

この史料集は、『松平大和守家記録一』が2,500円、『川越喜多町名主御用日記一』が1,500円で博物館にて頒布しております。博物館に直接お越しになれない場合は、郵送でも購入可能です。詳しくは当館のホームページをご覧ください。

(学芸担当 宮原一郎)

講座・教室等ご案内

当館では、平成2年の開館より地域の社会教育施設として児童生徒等に広く活動の場を提供するため、土曜日に様々な体験教室を実施してきました。内容についても年ごとに変更を加え、近年では年間を通して20本以上の講座を開き、たくさん子ども達に歴史や文化の継承に関わる体験をしてもらっています。

今回は、子ども向け講座と今年から開講した大人向けの講座の中から2つをご紹介します。子ども向けの講座は当館が管理している埼玉県指定文化財「川越城本丸御殿」を会場に使った講座です。



◆子ども体験教室～茶道体験～◆

5月14日(土)に、本丸御殿を会場に開催しました。「川越茶友会」の先生方を指導者にお迎えしての茶道体験。茶筌を使ってお茶を点てたり甘いお菓子を頂いたりして、本格的なお茶の世界を体験しました。

当日参加した子ども達からは、「お茶がこんなにきちんとしているとは思いませんでした。」「お茶を点てるのがたのしかった。」「お茶碗が季節にあったのでよかった。」といった感想が寄せられ、日本が育ててきたお茶の文化を五感で感じる事が出来たようです。また会場が本物のお城なので、子ども達にとっては背筋がピンとする緊張感とホンモノ感を味わえたことと思います。

このように本物の文化財を活用しながら体験の質を高める事が出来るのは、当館の魅力の一つと言えるでしょう。

◆大人体験教室～あいぞめでハンカチづくり～◆

5月26日(木)に、体験学習室で開催しました。今まで子ども体験教室のプログラムとして実施してきた藍染め体験でしたが、同伴された保護者の方からも「私もやってみたい!」という声をたくさん頂いていました。そこで"大人体験教室"として初めて大人限定で開催致しました。

この講座の講師を務めてくださったのは、当館で長年同好会活動を行なっている「川越唐棧手織りの会」の方々です。博物館での自分たちの活動経験を、講座の講師としても発揮して頂くことによって、社会教育の素晴らしいサイクルの実例となりました。

当日参加された受講者の方々の満足度は非常に高く、当館としても、今後、大人体験教室の要望に答えていきたいと思っています。



当館では、今回紹介した子ども・大人体験教室以外にも様々な体験教室を実施しております。当館ホームページや市の広報などに情報が載りますので注目してくださいね。

Information

平成28年度の博物館行事です(12月まで)

展覧会・講座・教室 etc

- ・・・一般向け事業 開催日・講座名
- ・・・子ども向け事業 内容・申込開始日

8月	7月16日(土)～ 第2回川越の指定文化財展—未来に受け継ぐ郷土の宝物— ～28日(日)	
	○3日(水)夏休み特別企画 探検!! とがりの町の博物館	○10日(水)夏休み特別企画 ミニ灯笼を作ろう
	●7日(日)古文書講座 初級編③	○20日(土)夏休み特別企画 親子で木をつかって遊ぼう
9月	10日(土)～25日(日) 平成28年度新作名刀展—現代の刀工と刀職—	
	●3日(土)大人体験教室 友禅染め	●21日(水)野外博物館教室 鎌道歴史巡り
10月	8日(土)～ 第43回企画展 城下町川越の町人世界	
	○1日(土)子ども体験教室 香りを聞く—香道体験—	●8日(土)野外博物館教室 絵図で歩く川越町 その1
	●9日(日)・23日(日)歴史講座 人物から見る川越町人の軌跡	●29日(土)野外博物館教室 絵図で歩く川越町 その2
	●22日(土)講演会 江戸の町人世界	
11月	～23日(水・祝) 第43回企画展 城下町川越の町人世界	
	5日(土)～ 第28回わたしたちの郷土川越展	
	●3日(木・文化の日)民俗芸能実演 「上寺山の獅子舞」 申込不要	○12日(土)子ども体験教室 和楽器体験—琴・三味線に挑戦—
	●6日(日)歴史講座 人物から見る川越町人の軌跡	○19日(土)子ども体験教室 花を遊ぶ—いけ花体験—
12月	～11日(日) 第28回わたしたちの郷土川越展	
	3日(土)～11日(日) 博物館文化祭	
	●4日(日)・11日(日)・18日(日)古文書講座 中級編	○10日(土)子ども体験教室 お正月飾りを作ろう

平成27年度 利用状況

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも、平成27年度中に、多くの皆様に御来館いただき、誠にありがとうございました。今後も、より多くの方に御満足いただけるよう、常設展示・企画展示の充実を図っていきたくと考えています。皆様の御来館を心よりお待ちしております。

施設区分	27年度入館者数				1日平均 入館者数	開館 日数
	一般	大学生・高校生	中学生以下	合計		
博物館	57,831	3,602	36,592	98,025	339	289
川越城本丸御殿	120,643	6,513	27,541	154,697	521	297
川越市蔵造り資料館	53,236	3,474	23,075	79,785	267	299

第43回企画展

「城下町川越の町人世界」

会期 平成28年10月8日(土)～11月23日(水・祝)

江戸時代、川越藩17万石の城下として栄えた川越町に住む町人たちがどのように生活したのか。町人の自治や商業活動などを対象として、川越町人の社会や生活などの様子を探ります。



川越氷川祭礼絵馬
天保15年(1844) 氷川神社蔵

平成28年度 新作名刀展

—現代の刀工と刀職—

会期 平成28年9月10日(土)～9月25日(日)

この展覧会は、公益財団法人日本美術刀剣保存協会との共催により、現代の刀工達が製作した刀剣類の内、入賞作品67点を展示いたします。太刀・刀・脇指の刀身をはじめ、つば(つば)・鍔(はばき)などの刀装具も展示しますので、現代の刀匠による名品を鑑賞していただければ幸いです。

利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券			
				博物館・美術館	博物館・本丸御殿・蔵造り資料館	博物館・本丸御殿・蔵造り資料館・美術館	博物館・本丸御殿・蔵造り資料館・美術館・まつり会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円	300円	450円	650円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円	150円	220円	450円

※()内料金は、団体(20名以上、1名につき)の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)※平成28年10月17日は開館
第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月29日～1月3日)
館内消毒(6月下旬)特別整理期間(12月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館)

◆ガイド ○博物館 平日(開館日)午前11時・午後2時 土・日・祝日 午後11時・午後1時・午後2時・午後3時
※予定を変更させていただく場合もありますので、ガイドを御希望の方は、博物館までお問い合わせください。

○蔵造り資料館 毎月第2日曜日 午前11時・午後2時 ※事前のお申し込みはいりません。当日直接おこしください。

○川越城本丸御殿 毎月第3日曜日 午前11時・午後2時 ※事前のお申し込みはいりません。当日直接おこしください。

◆機織り実演・体験(協力:博物館同好会)

○博物館 毎週火・水曜日 午後1時～3時 華の会(裂き織り)

毎週木・土・日曜日 午前10時～午後3時(12時～1時はお休み) 川越唐棧手織りの会

※予定を変更させていただく場合もありますので、御希望の方は博物館までお問い合わせください。

川越市蔵造り資料館は耐震化工事のため、平成28年10月18日から平成31年春(予定)まで休館いたします。

8月							9月							10月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	1	2	3	4	5	6	7	8
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	9	10	11	12	13	14	15	
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	16	17	18	19	20	21	22	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				23	24	25	26	27	28	29	
28	29	30	31											30	31						

11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				29	30	31				

○印は、3館休館(博物館、資料館、本丸御殿) ■印は、1館休館(資料館)

発行日◆平成28年8月2日 発行◆川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 TEL 049-222-5399 FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/

◆交通案内

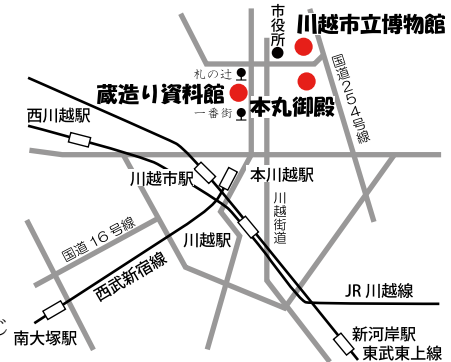
東武東上線・JR川越線 川越駅より

または西武新宿線 本川越駅より、

●東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス下車徒歩10分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車すぐ

●イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車すぐ

※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。



博物館の最新情報をパソコン又は携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のQRコードから登録の手続きができます。毎月20日に最新の情報を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信等にかかる費用は利用者の負担となります。

